

エクソソーム コラーゲン活性化タイプ

開発の経緯

当社ではヒト細胞順化培養液を10年以上研究開発しています。機能性を高めたヒト細胞順化培養液を追及した結果、コラーゲン産生を刺激する新しいヒト脂肪間質細胞エクソソームを開発しました。このエクソソームは細胞間の情報伝達を担い、有用成分の運搬体の働きもあります。成長因子ペプチドなどは細胞順化培養液に含有されているため、コラーゲン産生の材料をエクソソームに輸送させるシステムを構築しました。つまり、細胞の成長因子ペプチドとプロリンとアスコルビン酸をエクソソームに運ばせ、ヒト線維芽細胞でコラーゲン産生を促進させます。当社では化学物質を使用しないことから、培地にも発酵エキスを利用しています。また、開発したエクソソーム コラーゲン活性化タイプは低分子で、肌への浸透性が高い特徴があります。なお、この製造には特許成分が関係しています。

化粧品用 推奨濃度5%

表示名称 ヒト脂肪間質細胞エクソソーム、スタフィロコッカスエピデルミジス／豆乳発酵液、プロリン、アスコルビン酸(配合比率 90:8:1:1)

INCI Human Adipose Stromal Cell Exosomes、Staphylococcus Epidermidis/Soy milk Ferment Filtrate、Proline、Ascorbic Acid

原材料 : ヒト脂肪間質細胞(日本産)、スタフィロコッカスエピデルミジス(日本産)、豆乳(日本産)、プロリン(日本産)、アスコルビン酸(日本産)

保管方法 : 直射日光を避け、冷暗所に保管する。(開封後は早めに使用ください。)

未開封時賞味期限 : 2年間

その他 : 防腐剤、添加物、BGなどの有機溶媒は使用していません。

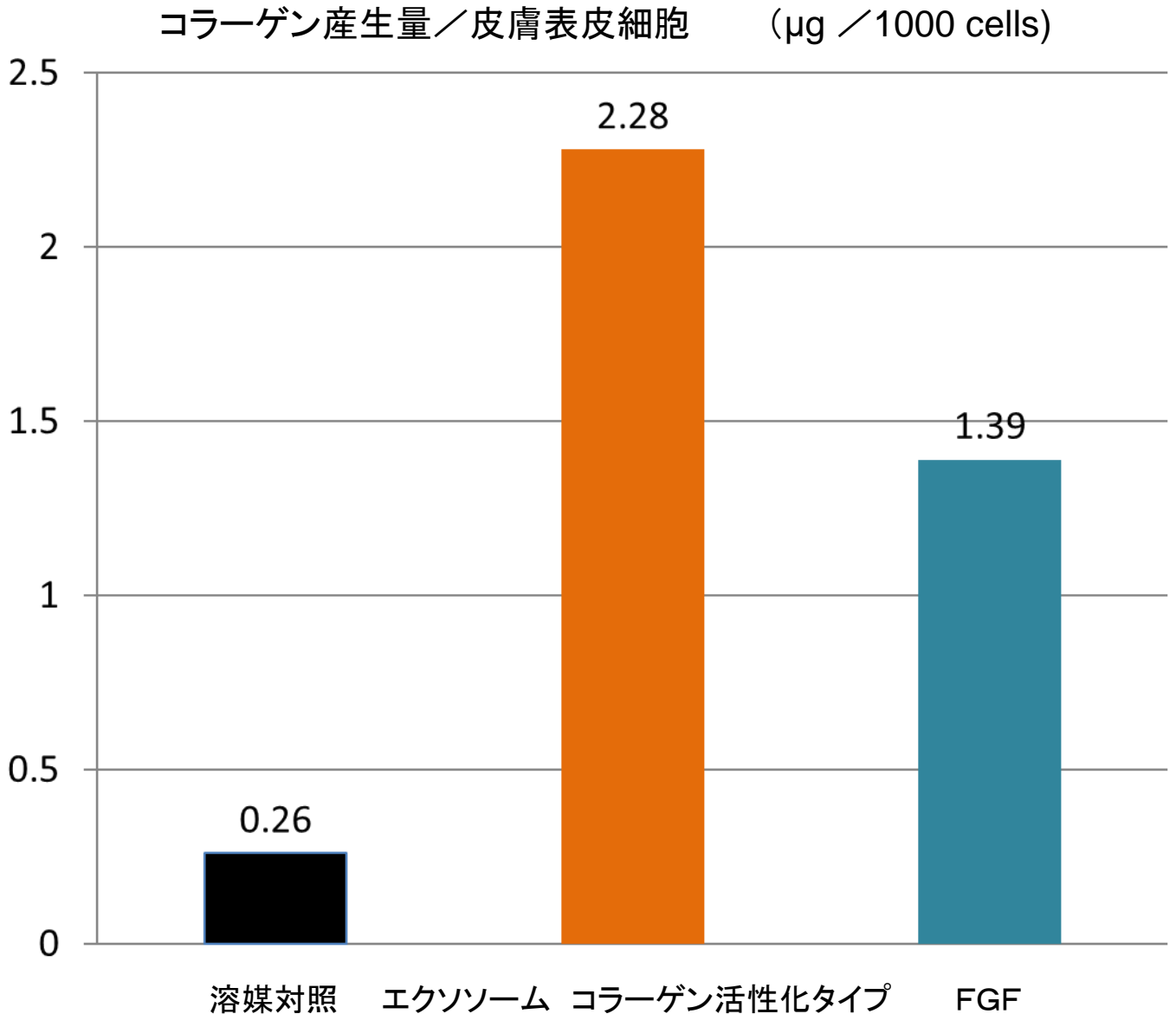
日本製造

特許第7015775号利用

エクソソーム コラーゲン活性化タイプ

－ ヒト皮膚線維芽細胞 / コラーゲン産生作用 －

ヒト皮膚線維芽細胞



エクソソーム コラーゲン活性化タイプは紫外線照射したヒト皮膚線維芽細胞に対してコラーゲン産生を増加させました。

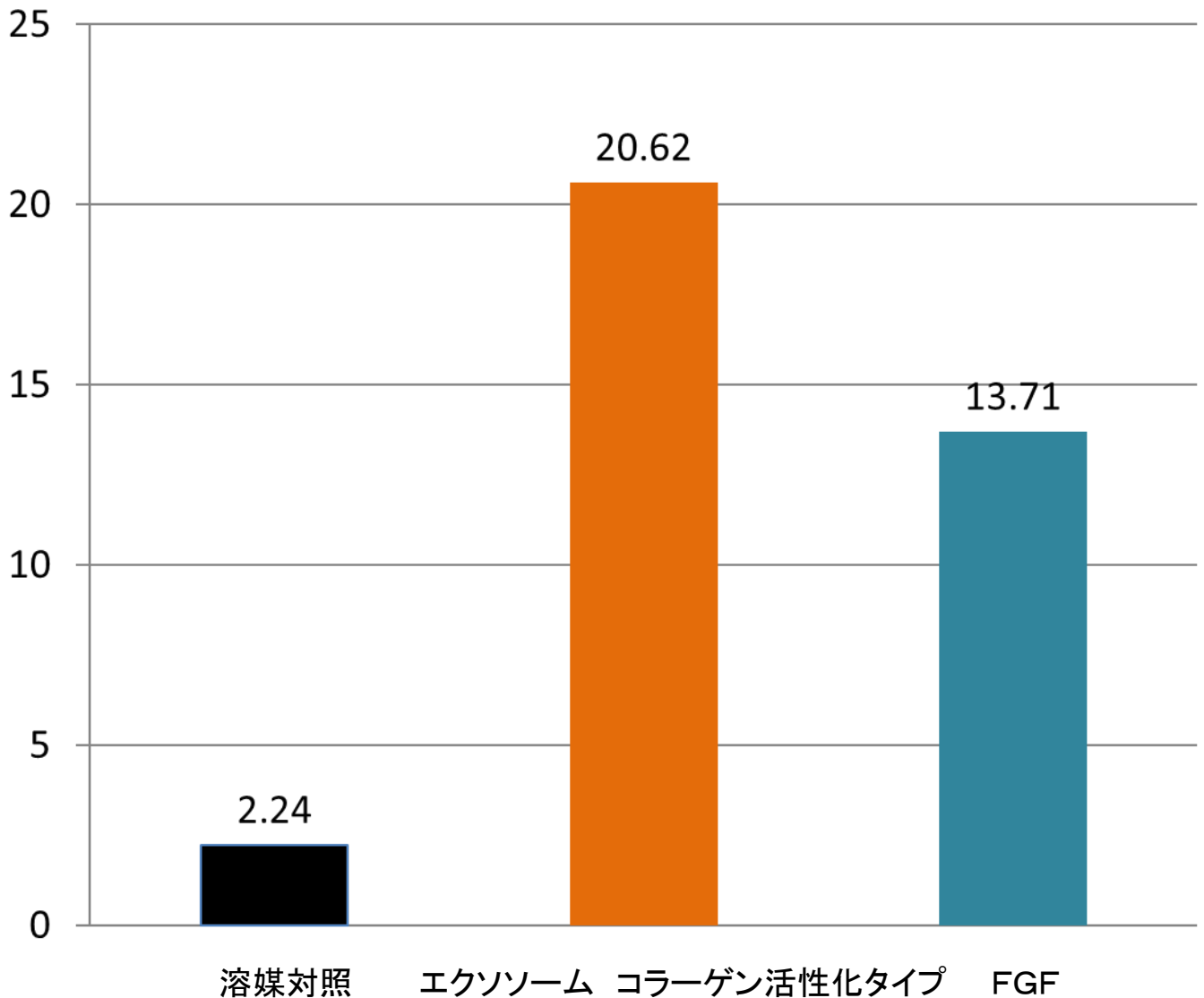
コラーゲン産生作用が期待されます。

エクソソーム コラーゲン活性化タイプ

－ ヒト皮膚線維芽細胞 ／ 弾性作用 －

ヒト皮膚線維芽細胞

弾性指数／皮膚線維芽細胞 (Units ／1000 cells)



エクソソーム コラーゲン活性化タイプは紫外線照射したヒト皮膚線維芽細胞の弾性指数(細胞安定性、コラーゲン産生指数、エラスチン産生指数)を増加させました。皮膚の弾性作用が期待されます。

製品規格書

製品名 : エクソソーム コラーゲン活性化タイプ

検査項目 :

1. 外観

検査項目	規格	測定方法
色	無色透明～薄黄色	目視
状態	液体	目視

2. 重金属・微生物

検査項目	規格	測定方法
砒素	2ppm 以下	モリブデンブルー法
重金属	20ppm 以下	硫化ナトリウム法
一般細菌数 (生菌数)	100 以下/g	標準寒天平板培養法
真菌数	陰性 0 /g	デキストリン培地培養法
大腸菌群数	陰性 0 /100g	MPN 算出法

化粧品用 推奨濃度 5%

表示名称 ヒト脂肪間質細胞エクソソーム、スタフィロコッカスエピデルミジス/豆乳発酵液、プロリン、アスコルビン酸 (配合比率 90:8:1:1)

INCI Human Adipose Stromal Cell Exosomes、Staphylococcus Epidermidis/Soymilk Ferment Filtrate、Proline、Ascorbic Acid

原材料 : ヒト脂肪間質細胞 (日本産)、スタフィロコッカスエピデルミジス (日本産)、豆乳 (日本産)、プロリン (日本産)、アスコルビン酸 (日本産)

保管方法 : 直射日光を避け、冷暗所に保管する。(開封後は早めに使用ください。)

未開封時賞味期限 : 2年間

その他 : 防腐剤、添加物、BGなどの有機溶媒は使用していません。

提供元 株式会社 Esthisis

以上

安全データシート (SDS)

< 1. 製品情報 >

製品名 : エクソソーム コラーゲン活性化タイプ
提供元 : 株式会社 Esthisis

< 2. 物質の特定 >

単一製品・混合物の区別 : ヒト由来エクソソーム誘導体
化学名 (一般名) : 特定できない
CAS RN : 特定できない
化審法番号 : なし
安衛法番号 : なし
国連番号 (番号 クラス) : 該当せず
EINECS : なし
TSCA : なし

< 3. 危険有害性の分類 >

分類の名称 : 分類基準に該当しない
危険性 : 可能性がある。 熱、火花及び火災で着火することがある。
有害性 : 眼、呼吸器及び皮膚を刺激するおそれがある。
環境影響 : 記載すべき情報はない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合 : 直ちにまぶたを開いて、流水で15分間以上洗浄する。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
皮膚に付着した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
吸入した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす場合がある。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。



特許証

(CERTIFICATE OF PATENT)

特許第7015775号

(PATENT NUMBER)

発明の名称
(TITLE OF THE INVENTION)

遺伝子修復作用を呈するポリフェノール誘導体

特許権者
(PATENTEE)

愛知県一宮市八幡四丁目1-67-606

二村 芳弘

発明者
(INVENTOR)

二村 芳弘

出願番号
(APPLICATION NUMBER)

特願2018-221898

出願日
(FILING DATE)

平成30年11月28日(November 28, 2018)

登録日
(REGISTRATION DATE)

令和4年1月26日(January 26, 2022)

この発明は、特許するものと確定し、特許原簿に登録されたことを証する。
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE PATENT IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

令和4年1月26日(January 26, 2022)

特許庁長官
(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

森

